

プロジェクト 出所後の就労支援 職親ジェ 受刑者に6社が説明

刑務所から社会に戻る人の就労を支援する「職親プロジェクト」は11日、帯広刑務所で「仕事フォーラム」を開催した。道内外の職親企業6社が参加。企業の事業内容などを説明し、

受刑者らは真剣に耳を傾けた。

同プロジェクトは、参加企業の雇用により、刑務所や少年院出所者の更生や再犯防止を支援している。全国で16支部1300社以上、道内では100社を超える企業が参加している。仕事フォーラムは実際の就労につなげる目的で、今年度2回目の開催。



この日は道内を中心とした6社の受刑者に語り掛ける長原支部長

の開催。

担当者が、フォーラムへの参加を希望した受刑者18人に事業内容や出所後の支援制度などを紹介した。運営業などを手掛けるドリールジャパン北海道(帯広)社長の長原支部長は「更生と就労の意欲は必須。その上で、理解のある環境で出所後の生活を始めてほしい」と呼び掛けた。

(小野寺俊之介)